

学会印象記

第 22 回日本エイズ学会印象記

鍵 浦 文 子

Fumiko KAGIURA

広島大学病院エイズ医療対策室 エイズ予防財団リサーチレジデント

1. はじめに

第 22 回日本エイズ学会学術集会が、平成 20 年 11 月 25 日から 27 日の 3 日間、大阪国際交流センターで開催された。今回は、京都大学ウイルス研究所小柳義夫先生を学会会長とし、基礎医学、臨床医学、一次予防、二次予防、看護、心理、社会福祉、社会資源、国際医療など、HIV/AIDS の様々な側面に関する新しい情報や研究内容について発表があり、わたしにとっては臨床で行っていることを再度振り返って考える有意義な時間になった。

今回の会場は、会場から会場への移動がしやすく、またオープンフロアにはポスター発表の掲示もあり、空いた時間にはポスター発表をじっくり見ることもでき、動きやすい会場であった。

2. 抗 HIV 療法と合併症

中国・四国ブロックのような比較的 HIV 感染者が少ない地域でも、B 型肝炎合併例や免疫再構築症候群での非結核性好酸菌症の患者にとときどき遭遇する。ただときどきしか遭遇しないので、知識不足があり、それを認識しているもののなかなか体系だって勉強していないのが現状である。今回のシンポジウムやセミナーで症例数を多く診ている先生達のご経験の話は、その自分の勉強不足を補い、それぞれの疾患への興味を促すものであった。多くの患者を診ている病院の経験は、ガイドラインとおりに治療をしたくても他の日和見感染症等の問題で、その通りには行かない場合もあるという話や、ガイドラインには載っていないような症例の治療をどうするという点も興味深い話であった。また、増加している悪性リンパ腫の治療には抗 HIV 薬と抗がん剤の選択にまだスタンダードなものがなく、早急に最も効果的な治療方法のエビデンスが提示されることが重要だと感じた。ただ、先生達のご経験の話を聞いていると経験から見いだせる良い治療法というのはあるように感じた。その事を学会を通してまとめて聞くことができ、当院の患者の治療を振り返り、今後の患者の看護に役立てるいい機会になったと思う。

3. HIV 感染の予防啓発

私は年に数回、広島県や広島市の行政担当者とともに、HIV 感染の予防啓発活動に加わっている。それには臨床の場で HIV 感染症の患者が増加していることを感じていることや、AIDS 発症で HIV 感染が判明する患者と接して、HIV 感染症にならないことや HIV 感染が早く判明することのメリットを感じているからこそ、予防啓発の重要性を感じているからである。予防啓発活動に参加し、活動を考えるときには、効果的なアプローチとは一体何かということを考えるも、いつもはっきりとした答えは出ない。これまで予防啓発の研修会に参加したこともあるが、そこでもその答えは見いだせなかった。

今回の学会のシンポジウムでは、企業としての予防啓発、偏見の軽減や解消の活動についての発表を見たり、予防啓発の研究をされている先生方の提言を聞いたりとした。インターネット上での活動については、私が知っているサイトの運営者であるサンスター株式会社の吉田氏による発表もあり、そのサイトの運営にいたる経緯を知る機会となった。また、有名なボディショップがエイズ予防啓発をおこなっていることを知る機会にもなった。ボディショップで担当者がコンドームを入れるケースを作ろうとしたら、反対する意見が出て大変だったが、店頭に置いてみたら売れ行きは好調だったという話も興味深かった。予防啓発を行う場合にコンドームや HIV 予防についてのパンフレットの配布をしていたりするが、ボディショップの藤田氏の話からコンドームケースの配布やコンドームケースについて紹介するパンフレットを盛り込むという手もあるのかもしれないと思った。

また、別のシンポジウムの中で、予防啓発のやり方を考える人と、それを選考する人、そしてそれを実行する人という役割の分担を担えば、同じ人がそれらを全部やるよりもより効果があがるのではないかと提言があった。私はこの話を聞いて、いままではっきりと答えが出せなかった効果的なアプローチを導く方法がこれにあるのかもしれないと思い、とても興奮した。だからといって、そのまま来年度の計画に生かせるかということ、残念ながら周り

の環境とのやりとりもあるのでなかなか難しいが、このシンポジウムで聞いたものに近づけられるような方法を取りたいと思った。

4. 看 護

私にとって、1事例への看護介入を振り返り熟考した発表はいつ聞いてもとても興味深い。特に今回のエイズ学会での他院調整を振り返った発表では、知的障害者入所更正施設への入所も検討したことが発表され、これまで知的障害者へのケアにあたったことがない私には「こんな社会資源があるのか」と驚きもあった。退院調整を行う場合には、いろいろな社会資源への理解が必要となるため、今後のケ

アに生かせる情報が得られたと感じた。また、他の発表も、各病院での抗体検査への取り組みや禁煙支援、食事生活への支援などの発表があり、当院にも参考になる情報であった。

5. おわりに

今回3日間のエイズ学会は、内容が多岐に渡ったシンポジウムや教育講演があり、それに加え今回はポスターセッションもあり、時間も朝から晩まで開催され、大変な作業だったと思います。この紙面をお借りして謝辞を申し上げます。ありがとうございます。